

標

四年

画数 15
筆順

一 木 杓 杓 標 標

二 オ ン

三 ヒ ヨ ウ

成り立ち



「重要(たいせつ)なことを示す」という意味の「票(年605)」と「木」とを組み合わせて作った字です。

「たいせつな『目じるし』になる木」という意味の字です。「目じるし」「目標」という意味に使われます。【例】標準、標的、標識、標記。

また、「標準」という意味にも使われます。【例】標本(標準的な見本)、標高。

使い方

▼わたしはジョギングを始めました。県庁の建物を目標にして走っています。一日三キロ走ると、標準の距離になります。多い日は四キロ位走ります。

▼ぼくは夏休みに昆虫採集をしました。主に蝶を集めました。きれいな蝶は標本にして、ガラスの箱に入れました。夏休みの良い記念品ができました。

熟語例

▼目標(目じるし。目当て)

▼標準(普通の基準。また、目当て、手本、などの意味にもつかえます。「標準語」といえば、一つの国で国語の規範として認められている共通の言葉です。)

▼標的(まて。弓や銃などで、ねらう的のことですが、広く、目標にするものという意味でもつかえます。)

▼標識(識別したり区別したりする時の目じるし。「交通標識にしたがって通行しましょう」などというふうに、つかえます。)

▼標記(目じるしとして書くこと。目じるしにする符号。また、標題として書くこと。)

▼標本(動物や植物などの見本)

使い方

▼昔も今も、不幸な人がたくさんいます。生活が不安定だったり、不公平な扱いを受けていたり、不満があったりして、不幸だと感じている人が多いのです。

▼世の中には不可能に挑戦しようとする勇敢な人たちがいます。険しい山に登ったり、難病をなおす方法を発見しようとしたり、さまざまなチャレンジが、日々行われています。

熟語例

▼不安(安心でないこと。気がかりな状態。「あしたの遠足が雨で中止になるのではないかと、ふと不安になった」などというふうに、つかえます。)

▼不当(正当でないこと。「不当な扱いを受けたので、腹が立った」などというふうに、つかえます。)

▼不思議(考えてもよくわからないこと。「あのケチな人がおこづかいをくれるなんて不思議なことがあるものだ」などというふうに、つかえます。)

▼不安定(安定していないこと。)

▼不合理(合理的でないこと。)

▼不可能(できないこと。)

不

四年

画数 4
筆順

一 フ

二 ア

三 不

四 不

成り立ち



鳥が空に向かってとび去って行く形を表した字です。

鳥が空にとび去ってしまつて地上に「いない」ということで、ものが「ない」ことを表したものです。「…でない」という意味で、いろいろなことばにつけて使われます。

【例】不幸(幸せでないこと)、不安、不当、不思議、不安定、不合理、不可能、不公平。

同じように「…でない」という意味に使われる字に「非」があります。この字は「非行」「非番」というように物事の名前のことばの上に使われますが、「不」は物事のじょうたいを表すことばの上に使われるちがひがあります。